

# Guam移転は戦略上の問題

アメリカは、9.11以降、テロとの戦いをもっとも重視。米軍の迅速な展開を可能にする基地に再編する構想です。アメリカの戦略上の問題としてグアムに拠点基地の建設を計画しています。

# 日本全体が出撃拠点！

辺野古に基地を作らせないこと、普天間基地は閉鎖・返還させることが重要です。基地が残っていれば、日米安保条約では基地の使用を拒めません。必ず基地を使うことになります。また、米軍は日本全体を出撃拠点(基地!)にするため、全国の港湾に米軍艦を寄港し、慣れさせようとしています。

# アメリカ国内でも海兵隊不要論

アメリカ国内では、イラク戦争とアフガニスタン戦争で戦費が国家財政を圧迫。軍事費の思い切った削減を、という動きがあります。宜野湾市市長の伊波氏が「沖縄の基地は、1945年の沖縄戦争中やその後の占領時代に取り上げた土地で、国際法に違反し、沖縄住民の権利を著しく侵害している」と申請し、米軍基地見直し委員会は、米連邦議会に普天間飛行場の閉鎖を勧告しました。

またアメリカは、沖縄の米軍基地がテロ攻撃されることも警戒しており、沖縄の海兵隊の不要論はアメリカ国内でも急速に広がっています。

# Guam移転の詳細は？

大田県政では、毎年のように訪米して、積極的に米政府や議会、シンクタンクに働きかけてきました。が、その後は主体的に沖縄の基地問題の解決を図ろうとしていません。また日本政府は、アメリカ政府に言われるがまま7000億円もの税金を移転費用として出しながら、グアム移転計画の詳細を具体的に明らかにせず、国民や議会に説明していません。

# 普天間基地撤去が日本を変える

グアムに拠点を移すと、普天間飛行場の移転だけではなく、日本にある他の米軍基地からも移転する可能性は強いのです。だから普天間基地を撤去し、国外に移転させることは、沖縄と日本の米軍基地問題を大きく解決することにつながります。普天間基地の問題を解決することは沖縄を変え日本を変えることでもあるのです。

でも、沖縄の人たちは、「基地が沖縄から出て行きさえすればいい」とは思っていません。なぜなら、「基地がどこに動いたとしても、今度はその土地の人たちが今の自分たちと同じ苦しみを味わわなくてはならないからだ」、それが「**チムグリサの心**」だということです。

# チムグリサ！ 肝苦

内臓がかき回され、引きちぎられるような痛み。胸が締め付けられて苦しくなるような思い。他者が苦しみ、死んでいく様子を、平然と見過ごすことができない。自分のことのように痛みを感じ、自分に責めを感じ、いても立ってもいられない。しかし自分の力ではどうすることもできない。そういう思いをひっくるめて、沖縄の人は「チムグリサ」と言う。

沖縄の優しい心が溢れる言葉  
今こそ必要なのではないのでしょうか。



成城・祖師谷地域「九条の会」

みんなが幸せになれる  
平和な世界



# なんで？ 世界でいちばん 危険な基地か？

## 沖縄 に?!

### 沖縄の米軍基地の広さは？

沖縄には基地および関連施設は32カ所あります。それは沖縄全土の10%を占めています。

1945年4月、日本本土を攻撃する目的で普天間飛行場がつけられたのが始まりで、戦後66年間それはさらに拡張され、いままた米軍ヘリパットの建設が東村高江で進められています。

またこの5月に、普天間基地と嘉手納基地を統合する提案をアメリカ軍事委員会が発表しました。

### 基地がなくなったら沖縄経済はたちゆかなくなる？

基地関連収入は復帰当時は沖縄経済に占める比率は15%でしたが、現在は5.2%に減っています。例えば普天間では基地関連雇用は約200人。いま検討されている基地跡地利用計画をみると、公園、商業地、住宅、公共施設の建設を予定し、雇用は8千人と試算されています。

フィリピンでは米軍基地撤退後、雇用が5倍になりました。

### 在日米軍への「おもいやり予算」って何？

日本の防衛予算の中に毎年在日米軍へ支払われる予算があります。「日米地位協定」が結ばれて、それに伴う具体的な取り決めが1987年に締結された「日米地位協定の実施に伴う特別協定」で、一般的に「おもいやり予算」と言われています。

日米地位協定の中身は米国側の一方的な権利のみが大部分で、それに沿った経済的な取り決めがこれです。

まず1978年の日本人従業員の労務費に始まって、贅沢な住宅、娯楽施設、そこで働く人達の衣服から蝶ネクタイまでに当てられています。

さらに1991年度からは光熱水費が加わり、湯水のように使われるようになって、軍人と家族等を加えて約9万人を養うことになったのです。毎年2千億円という巨額の私達の税金が支払われ、他の同盟国の10倍くらいの負担額となっています。

今、東日本大震災に苦しむ被災者にこそおもいやり予算が組まれるべきではないでしょうか。

## 『普天間基地はあなたの隣にある。だから一緒になくしたい』(伊波洋一著) に学ぶ

### 「市民に被害を与えては基地は存続できない」

(米・カリフォルニア州 オーシャンサイド・シティ市長)

国民のみなさんは、基地があれば多少の被害が出るのは当たり前だと、そう思っておられるかもしれません。しかし、これが肝心のアメリカに行くと、全然違うのです。

アメリカでは、基地は国民に被害を与えてはならないというルールが確立されているのです。例えば20キロほど離れたところに基地があったとしても、都市は膨張し、成長していきます。そして、基地の周辺にまで住宅地になり、基地が住民に被害を与えるようになったときには、住民が出ていくのではなく、基地の方が去らなければなりません。それがアメリカにおける基地と住民の関係です。

——ところが、普天間飛行場は、その米軍の安全基準に明確に違反して運用されているのです。世界一危険な飛行場になるのは当然のことでしょう。

### 「普天間基地はあなたの隣にある」

普天間飛行場は、戦後日本政治の縮図のようなものです。アメリカに占領されて基地を押しつけられたという点でも、アメリカの世界戦略の影響をもちに受けてきたという点でも、日本政府が、沖縄県民・日本国民の利益よりアメリカに追随することを選んだ結果があらわれている点でも。

ですから逆に、普天間飛行場問題を解決することは、沖縄を変え、日本を変えることにつながると思います。「だから一緒になくしたい」のです。

1953(昭27)生  
宜野湾市出身  
琉球大学理工学部物理学科卒  
・宜野湾市職員、沖縄県議会議員2期を経て、宜野湾市長(2003年4月就任2期目)。  
基地のない沖縄の平和的発展をめざして様々な活動に取り組んできた。  
・市長就任以後は普天間基地と在沖海兵隊の国外移転を求めて精力的に取り組む。  
・著書  
『沖縄基地とイラク戦争、米軍ヘリ墜落事故の深層』(共著 岩波書店)『米軍基地を押しつけられて』(創史社)『これが米軍の思いやり予算』(共著 社会評論社)

